

第6次 松川町総合計画の 基本的方向性について

まちづくり政策課 企画調整係

総合計画とは

■ 総合計画の役割

松川町全般にわたる政策や方針を定める計画。

個別計画等、それぞれの政策領域において展開される計画のもとになるもの。

■ 第6次総合計画の位置づけ

現計画(第5次総合計画改訂版)にも掲げる、「まちづくり将来像」を尊重しつつ、より時代に合った計画へとアップデートする。

まちづくり将来像

いっしょに育てよう 一人ひとりが輝く 笑顔あふれるまち まつかわ

→改訂版より前、第5次総合計画策定時(H27)の地域づくり会議において、全9回にわたる議論の末、松川町の20年後、30年後の将来像として導き出したものであり、次期計画でも基本的・普遍的な理念として尊重していきたい。

現計画に対する課題認識

沿革と議論の整理

■ 平成23年 総合計画の策定義務の廃止



■ 総合計画の策定は、個々の市町村の判断

- ▷ 「総合計画」という名の計画は策定していない自治体も

(例)神奈川県藤沢市「市政運営の総合指針」



■ 「総合計画」に対する考え方を見直す必要

- ▷ 急激な時代・環境変化のスピード感に追い抜かれていないか
→ 人口減少局面、コロナ禍を経た社会変容 など
- ▷ 策定の事務負担に比して、策定の効果が薄まっていないか
- ▷ 網羅的・総花的で、重点が霞んでいないか

松川町第6次総合計画の目指す形

■ 将来の地域・時代を見据えた 直近に取り組むべき(取組みたい) 重点方針・分野の明確化

- ▷ 新町政になったことや、その時々为社会情勢に即しながら、新しい取組への転換やこれまでの取組の加速を実現する計画

■ 脱・「置物化」と理念共有&浸透

- ▷ 事実、現在も総合計画を見なくても事業は進んでいる。
「置物」ではなく「使える」計画に
- ▷ 事業を細かく記載するというよりも、政策方針や最終目的を役場職員・町に関わる主体・町民と共有する
- ▷ 登り方やルートは違って、同じ山の山頂を目指している状態をつくる

■ わかりやすい体系と構成&省力化

- ▷ 社会情勢の変化の速さに対応できるよう、明瞭でわかりやすく、時間と費用を無駄にかけない

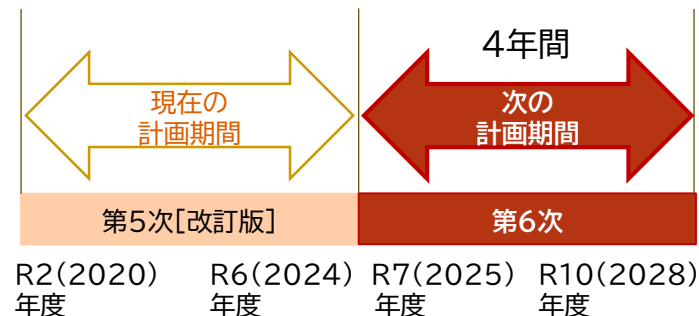
アップデートの方向性・考え方

■ まちづくり将来像を実現するためのプロセス 「一人ひとりの**幸せ実感**(ウェルビーイング)」を高めていく

- ▶ 総合計画は、松川町に暮らすひとの幸せ・暮らしやすさを向上させるためのものと捉え、こうした概念を指標により可視化したうえで基本計画に反映する。
- ▶ 計画策定から進捗管理(評価)の場面で、**地域幸福度(Well-Being)指標**をまちづくりの共通言語として活用する。

■ 計画期間

- ▶ R7(2025)年4月1日 ~
R11(2029)年3月31日 の4年間



■ 重点分野にフォーカスする

- ▶ 全ての施策を網羅するのではなく、4年間の計画期間内で特に進めたい重点分野を明確にしたうえで、施策に落とし込む。

今回の計画であれば、「子育て」、「シゴトづくり」、「移住定住」。

(地域づくり会議で重点分野をテーマにしたワークショップを実施)

第6次松川町総合計画のビジュアル図(総合計画×ウェルビーイングの姿)



基本構想について(ビジュアル図の①および②の部分)

■ 基本構想＝①まちづくり将来像＋②実現プロセス

■ ① まちづくり将来像

いっしょに育てよう 一人ひとりが輝く 笑顔あふれるまち まつかわ

→ ウェルビーイングの概念を得たうえで、まちづくり将来像を再認識する

「いっしょに育てよう」…孤独・孤立に陥ることなく、人とのつながりを育む

「一人ひとりが輝く」…自己実現のための舞台・居場所がある

「笑顔あふれるまち」…まさに幸せ実感(親和性が非常に高い)

→ 現計画に掲げた将来像を、次の計画でも大事にしていく。

■ ② 実現プロセス

「一人ひとりの幸せ実感(ウェルビーイング)を高める」ことで、
まちづくり将来像を実現していく。

→ 現計画の、「将来像の実現に向けた3つの柱」に該当する部分をアップデート。

基本計画について(ビジュアル図の③および④の部分)

■ 基本計画③とウェルビーイング指標④の関わり

◎ 計画策定時…現状認識・課題発見のための分析ツールとして活用

様々な会議体でまちづくりを議論する際の共通言語として活用

具体的な基本施策や重点事業を分野毎に整理するインデックスの役割

→ 現計画の「基本方針」、「施策大綱」を取り外し、シンプルに。

◎ 進捗管理時…基本構想の実現度合、基本計画の進捗状況を計測する指標として活用

→ 町民意識調査を毎年実施して計測する。行政評価にも反映させる。

■ 基本施策・重点事業の設定方法

1. 町民意識調査(ウェルビーイング指標)による分析
2. 地域づくり会議の意見・提案
3. 町政・各課係で特に力を入れていく事項
4. 現計画の基本施策の評価(要改善・拡充事業等)
5. 個別計画と連携して取り組んでいく必要がある事業

個別計画について(ビジュアル図の⑤および④の部分)

- 総合計画(基本構想①②+基本計画③)と個別計画⑤の関わり
基本構想を共通理念として掲げる
→ 必然的に個別計画においても「一人ひとりの幸せ実感」を高める取組が求められる。
- 個別計画の役割
それぞれの政策領域・専門的見地から基本構想の実現に向けて、
一人ひとりの幸せ実感に繋がる施策を展開する。

これまでの取組経過(R5年度中の動き)

■ 第5次松川町総合計画[改訂版]の期間延長

計画終期をR5(2023)年度→R6(2024)年度に延長(+1年度間)

■ 町民意識調査アンケートの実施

R5.12月に実施。結果は町HPに公表、庁内へも共有。

地域幸福度(Well-Being)指標はデジ庁等WEBでフルオープン。

■ 地域幸福度(Well-Being)指標に係る職員勉強会の実施

R6.3.26～27の計8コマ、職員72名参加。

これまでの取組経過(地域づくり会議について)

■ 地域づくり会議メンバー

- ▷ 18名(男性9、女性9)
- ▷ 10代(高校生)～50代

宮澤 由美子	北沢 毅	篠田 阿依
田中 大也	北林 南	北村 朝子
中島 拓也	熊谷 久美	下澤 綾子
正井 亜樹	伊藤 瑞記	市瀬 森友
北原 太志郎	小川 隼人	柳原 猛
久保田 菜美子 (公募)	池野 明理 (公募)	井澤 将太 (公募)

(敬称略、順不同)

■ 位置づけ(設置要綱あり)

- ▷ 住民主体でまちづくりの将来像やそのために必要な施策等について自由に意見交換や提案を行うための会議体

■ 総合計画策定における行政との関係

- ▷ 地域づくり会議において話し合うテーマや方向性は、丸投げではなく、行政において責任をもって提示
- ▷ 地域づくり会議で出たアイデアは、行政側がきちんと政策領域に落とし込む

■ ウェルビーイング指標の活用

- ▷ 自由な議論とアイデア出しを促すために、テーマごとに町民意識調査アンケートの結果を提供する

■ 行政職員の参加について

- ▷ 各回において、グループごとのワークショップを予定しており、住民との対話とアイデアを話し合う観点から、係長を中心に中堅職員が参加する。(庁内策定委員会の一環)

これまでの取組経過(地域づくり会議の各回内容)

■ 第1回(令和6年6月14日)

テーマ「10年後の松川町を想像し、守りたいもの・変えるべきもの」

【守りたいもの】

自然環境、地域のつながり、農業や飲食店等の地元産業の力強さ、
教育機関(初等中等教育)の充実、学校給食、若者のチャレンジ環境

【変えるべきもの】

閉鎖的な雰囲気、固定観念の押し付け、公園やスポーツ施設の不足、
メンタルヘルスや居場所の充実、自治会や消防団等の組織運営の見直し、
高齢者が農業を支えている現状

これまでの取組経過(地域づくり会議の各回内容)

■ 第2回(令和6年7月4日)

テーマ「“子育て”をキーワードに町の施策や事業につながるアイデアを考える」

【グループワークの主な意見・提案】

ランドセルやリュック等の入学必需品の支給

通学路や公園整備ほか親が子どもを安心して送り出せる環境整備

子育て世代が安心して集える場所(屋内)の整備

子育てに関する情報の一元化

土日勤務や病気時の子どもの預け先等多様な働き方に対応した支援

若い人や高校生がふらっと立ち寄れる居場所づくり

子どものコミュニケーション能力を育む場の提供

これまでの取組経過(地域づくり会議の各回内容)

■ 第3回(令和6年7月25日)

テーマ「“仕事づくり”をキーワードに町の施策や事業につながるアイデアを考える」

【グループワークの主な意見・提案】

農業分野における後継者不足を解消する施策

後継者育成に資する支援の充実

仕事に関する教育や体験の充実(農村留学、就業体験)

都会の企業が利用できるサテライトオフィスや保養所の設置

リニア開通を見据えビジネスでも公共交通の充実

リニア開通と結びつけた二拠点生活の推進

外部環境の理解と交流に繋がる取組の推進(ビジネスマッチング)

キャリア経験を積んでのUターンがしやすい環境整備

スタートアップに留まらない継続的な起業支援

これまでの取組経過(地域づくり会議の各回内容)

■ 第4回(令和6年8月8日)

テーマ「“移住・定住”をキーワードに町の施策や事業につながるアイデアを考える」

【グループワークの主な意見・提案】

定住対策としての病院・買い物・交通の利便性向上

移住者と地元住民とのつながり改善

田舎の良さを生かし「癒しの場所」としての町の発展

特色ある保育園・学校づくり

田舎特有の過干渉や近隣住民との距離感の改善

自然環境や森林豊かさを活かした地域の活性化